



発行責任者
東大和障害福祉ネットワーク
東大和市南街1-22-6
シティコート南街1F
NPO 法人
自立生活センター・東大和内
TEL: 042-567-2622
2020年12月1日発行

代 表 挨拶

東大和障害福祉ネットワーク 代表 水谷 雅弘

皆様こんにちは。コロナ禍の中、いかがお過ごしでしょうか。

平素は東大和障害福祉ネットワークの活動にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。ここに謝意を表します。

さて、本来であれば、スタートの発行は毎年10月でしたが、想定外の新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、スタートの発行が大幅に遅れてしまいました。お詫びいたします。

東京オリンピック、パラリンピックが延期され、自粛ムードが漂う中、障害者施策に関する動向はどうでしょうか。東大和市に関しては2020年度の活動報告(2019年度分)で述べましたので、ここでは国の動きについて4点触れます。

- ① 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、改正バリアフリー法が今年5月に成立、交付されました。しかし、ここ1年あまりで視覚障害者の駅ホームからの転落死亡事故が首都圏だけでも4件発生しており、実態としてはまだまだという思いです。周囲の人々による声掛けや具体的な援助など心のバリアフリーも強く求められます。
- ② 2019年6月に成立した読書バリアフリー法は、国の基本計画が今年7月に制定され、今後5年間にわたって国は基本計画に基づいて私たちの読書環境を整備していくことになりました。なお、より高いレベルの障害者情報コミュニケーション保障法(仮称)も検討されています。
- ③ 障害者差別解消法ですが、3年経過後の見直し作業が行われ、今年6月に答申が出されました。ポイントは民間事業者に対しても合理的配慮が法的に義務化されることです。2021年の通常国会で成立する見込みです。これによって共生社会が一步近づくことを期待します。
- ④ 雇用施策と福祉施策の連携による重度障害者等の就労支援が10月より始まりました。これは重度障害者に対して職場等における介助や通勤の支援を実施する制度ですが、地域生活支援事業のため自治体によって取り組みに大きな格差があります。ただ、重度障害者にとっては待望の制度がスタートしたことになり、今後の展開に期待します。長期的には福祉と雇用の連携・一体化プロジェクトの成果に委ねます。

冬を迎えて新型コロナウイルス感染症の威力がますます強まる中、障害者施策に関する大きな前進は難しい状況です。また、東大和市においても市の行事やイベントの多くが中止となっています。今後は単に中止とするのではなく、何らかの方法で開催できるよう皆で知恵を出して取り組みたいと思います。いずれにしても一日も早くワクチンの投与が始まることを切に願っています。それによって東京オリンピック、パラリンピックが無事に開催され、当ネットワークの活動も正常に戻ることを期待します。

皆様方も十分に注意し、新しいよい年を迎えられますよう心からお祈りします。

どうぞご自愛ください。

コロナにおけるアンケートについて

東大和市障害福祉ネットワーク構成団体のみなさまに、コロナ禍において、現在の活動をするうえで起こっている現状を確認・共有したいと思い、アンケート調査を実施しました。普段気にもせず出来ていたことが出来なくなることで、見えてくるものもあると、改めて、気づかされることも多々ありました。たくさんの団体の方々にアンケートのご協力を頂き、ご協力ありがとうございます。以下アンケートの内容と、回答の一部です。(構成団体の皆様には、メール等でアンケート結果の共有をさせていただきます)。

- 1、 コロナ渦で活動をしていくうえで、お困りのことはありますか
 - ・ 消毒や、普段利用できるサービスが利用できない利用者への対応、単独外出ができなくなった方の支援、マスクの管理などの業務が増えた
 - ・ 人が集まる定例会や、販売会などイベントができない
 - ・ 販売の機会が激減していること、下請け作業の仕事も影響が出ており、利用者の工賃確保に苦慮している
 - ・ リモート会議など不慣れ
 - ・ 視覚障害は触れる、接することが大事だが、コロナ対策では反してしまう
 - ・ 通訳の立場はソーシャルディスタンスを保つのが難しい
 - ・ マスクをつけると、口の動きが見えない 声が聞こえにくい
- 2、 コロナ禍で活動をしていることで、今後予想される課題はありますか
 - ・ PCR 検査の精度や、ワクチン、治療薬など信頼性や副作用など心配
 - ・ イベントができないことへのストレスや交流の機会の減少による不安
 - ・ 売上げの減少→工賃の減少
 - ・ 感染疑いのある方に対するスムーズな検査や診断が受けられるシステムの構築
 - ・ 感染者が出た際の対応や生活への不安
 - ・ 日中活動に通所が出来なくなる利用者への支援体制整備
- 3、 感染予防（対策）として活動をする上で取り込んでいることはありますか（団体として、利用者に対してなど）
 - ・ 消毒や、マスク、検温、換気の徹底
 - ・ 飲食の時間を分ける
 - ・ とにかく集まらないようにする
 - ・ 定例会をオンライン開催
 - ・ フェイスシールド、マウスシールドの活用
 - ・ 電話でのモニタリングや時差出勤
- 4、 今振り返ると、逆に良かったなと思うことはありますか（こういう工夫をして楽しく過ごせたなど）
 - ・ 日々の検温で健康状態の把握ができた
 - ・ 衛生環境や意識の向上
 - ・ 在宅ワークや訓練が認められ、働き方の可能性が広がった方がいる
 - ・ オンライン会議化され、移動時間が無くなった→移動が難しい方の社会参加にもつながる
 - ・ 普段関わらない時間を利用者で過ごせ、いろいろな面が見られた
 - ・ CD を聞いたり読書をしたりという時間が増えた
 - ・ 空いていた事業所のおかげで、ひきこもらずにいられた
 - ・ テレビで手話通訳が増え、手話通訳の周知になった
 - ・ オンラインの世界が広がった、思っていたよりオンラインのイベントを楽しめた

5、 この状況が落ち着いたら、やってみたいことはありますか（個人として、団体として、ネットワークとして等）

- ・中止や延期になっていたイベント（旅行や音楽会、映画、まつり等）。
- ・障害のある方々が集まってお話ができる場（困りごとや要望など）
- ・コロナを気にせず交流や、外出、コミュニケーションの機会、食事会
- ・地域の皆が集まれるような場やイベント

6、 コロナ禍における活動を行う上で、こういうものがあつたら良いなというものがありますか
N = 28 n = 23

- ・事業運営に伴う費用の補助, 15
- ・衛生用品（マスク、消毒液など）の定期的な配布 20
- ・感染者が出た際の隔離スペースの確保, 16
- ・柔軟な制度利用 20

その他

- ・事業所を閉所しなければならなくなった際の、運営の全般的な補助
- ・希望する当事者、家族、職員へのPCR検査の実施
- ・タクシー券の増額
- ・市の施設における、無料のWi-Fi環境を利用して、定例会、イベント等をオンライン形式で開催。市の会議などもオンラインで実施。ネットワーク環境の整備

7、 その他、ご意見があればご記入ください

- ・熱発等の症状があった場合、優先的に検査を受けられる仕組みや24時間相談できて迅速に対応していただけるような窓口を設置していただきたい
- ・3密を防ぐと言っても、子ども達が遊ぶ場所では不可能。学校を休校する事態でデイや学童は開所というのは理解に苦しんだ（本当に危険なウィルスなら、どこも閉所すべき。そのようになった時のシミュレーションをしておくべき）。
- ・コロナ禍になり、これから行政の手続きをどんどん簡素化、オンライン化して欲しい。
- ・市の会議も対面とオンライン等、選べるようにして欲しい。
- ・市内にいつでも受けられる検査場と、障害があっても安心して入院できる施設が欲しい
- ・コロナを理由にすべてのイベントを中止にするのではなく、代替案の提示が欲しい
- ・送迎サービスを外注にしたいが、加算が少なすぎてできない。補助などの施策が欲しい
- ・予防対策で言われていることが、視覚障害者には不自由なことがある

市内公共施設の障害者用トイレの調査結果



2017年度秋ごろから始めた、市内の公共施設のトイレ事情調査、日頃市内の公共施設のトイレが使いにくいことは、あちこちで耳にしていたのですが、まずは市内のすべての公共施設の障害者用トイレの実態を調べてみることからスタート、役員だけでなく、賛同団体の皆様のご協力で、ほとんどすべての公共施設、さらにモノレールの駅や病院などのトイレもチェックし、昨年のスタートで調査結果の概要を報告させていただきました。

役員会では、さらに、様々な障害のある人が利用しやすいためのポイントを検討し、対象を公共施設に絞って、再度チェックリストを作り調査をしました。調査とまとめに時間がかかりましたが、添付の一覧表のようにまとめることができました。

結果としては、東大和市内の公共施設のトイレは、今ではとても使いにくい古いタイプのものだったり、広さはあるのに洗面台の位置や大きさにより、実際には車いすの人が使えなかったり、荷物かけや荷物置きはほとんどなかったり、オストメイト対応になっているのに、水道の元栓が閉めてあって使えなかったり・・・などなど、とても残念な結果でした。

トイレの問題は、生活していくうえで最も基本的なもので、障害のある人も、障害のない人と同じように暮らしていくためには、最優先で整備されるべきものだと思います。

障害福祉ネットワークでは、まず改善してもらいたい点を、要望書としてまとめ、市長との懇談を要望しましたが、コロナの感染防止のためということで、市長との面談はかなわず、9月7日に要望書のみを提出し、10月28日付けで回答をいただきました。回答の内容は、ほとんどが財政的に無理というもので、とても残念なものでした。会としては、今後、車いすの人が使えない障害者用トイレは、何とかして最優先で改善してほしいなど、再要望を検討していく予定です。

ようこそ！新構成団体・新役員の紹介 ①



初めまして「東大和市心身障害児・者 家族の会ゆめのわ」です。

2019年4月に市内在住の村山特別支援学校在籍、卒業の保護者で立ち上げました。

障害があってもなくても地域で生き生きと楽しく暮らすことを目指しています。…と、書くと難しいことをしていそうですが、主な活動は定例会でおしゃべりしながら情報交換をすること、何か楽しいことができないか考えることです。

メンバーは日頃、子どものお世話などで忙しくしているので、ゆっくり少しずつ活動しています。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインで定例会、おしゃべり会を開催しています。

もう1つの活動である市の福祉活動への協力としては、2019年12月に東大和市障害者理解促進事業「生きるってこんなに楽しいんだ！～重症心身障害児・者と共に生きる～」開催のお手伝いをさせていただきました。地域自立支援協議会 生活部会にも参加しています。

ネットワークに加入して、地域の皆様と繋がることができたら嬉しいです。ご指導ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。

ホームページを開設しました。これから内容を充実させていきたいと思えます。

ホームページアドレス [https:// yumenowa .jimdosite.com](https://yumenowa.jimdosite.com)



ようこそ！新構成団体・新役員の紹介 ②



7月よりネットワークに参加させていただいております、合同会社ボアソルチの田中海之と申します。私事で恐縮ですが、以前は近隣市の救護施設や障害者施設、東大和市社会福祉協議会の支援センターウエルカムに勤めておりました。世の中の社会資源や制度は少しずつ整備されておりますが、まだまだ精神障害のある方の住まう場や理解が少なく、一人暮らしを目指したいが、様々なご事情でその願いがかなえられない方、地域における課題を感じながら生活をしている方が多いことを感じておりました。少しでもその方々の力になればと思い、今年の7月に精神障害のある方を対象としたグループホーム（グループホームマアル）、計画相談支援事業所事業所（相談支援事業所ポルト）を開所しました。従業員も、長年地域や病院で活躍していたスタッフが集まってくれました。一人一人の力では動かないことでも、皆で力を合わせれば変えていけると信じ、ネットワークの皆様と協同し、地域で暮らす障害のある方の生活がより良いものとなるよう、尽力して参りたいと考えております。

